

名譽教授久保岩太郎著作目錄

(ゴチックは單行書。(ハ)の内容は出典又は註。そのうち、『』は雑誌、
(ハ)は單行書、號數に見られる・は合併號を、夫々表示するものとする。)

大正一五年(一九二六年)

隔地的法律行為の準據法に就て(『商學評論』第五卷第一號、六月)

物の所在地の變更と物權の準據法(『商學評論』第五卷第三號、十二月)

昭和二年(一九二七年)

物の所在地の變更と物權の準據法各論(『商學評論』第六卷第二號、九月)

昭和四年(一九二九年)

失踪宣告の準據法(『商學評論』第七卷第四號、三月)

婚姻成立の準據法に就て(『商學評論』第八卷第二號、九月)

ダイシー氏の英國國際私法準則(資料)(『商學評論』第八卷第三號、十二月)

昭和五年(一九三〇年)

物權の準據法としての所在地法の適用範圍を論ず(『商學評論』第九卷第二號、九月)

動産の所在地變更と物權の準據法序説(『國民經濟雜誌』第四九卷第六號、十二月)

昭和六年(一九三一年)

不法行為の準據法を論ず『商學評論』第九卷第四號、三月)

國際私法に於ける法律關係の性質決定に關する論争(一)・(二)『國際法外交雜誌』第三〇卷第八號・第三〇卷第九號、一〇月・十一月)

債權契約の準據法を論ず『商學評論』第一〇卷第二・三號、十一月)

昭和七年(一九三二年)

債權の讓渡並に消滅の準據法(一)・(二)『商學評論』第一〇卷第四號・第一一卷第一號、三月・六月)

涉外法律行為方式論『國際法外交雜誌』第三一卷第七號、九月)

涉外權利能力論『商學評論』第一一卷第三號、十二月)

昭和八年(一九三三年)

涉外禁治產論『山口商學』第二二號、一月)

法性決定の隣接問題並に國際私法と外人法との關係『商學評論』第一一卷第四號、三月)

涉外法律行為論序說『商學評論』第一二卷第一號、六月)

涉外行為能力論(一)・(二)『國際法外交雜誌』第三二卷第六號・第三二卷第七號、七月・九月)

國際私法に關する私案と立法例(ワルカー私案、チェッコスロバキア法案、波蘭法—譯文)『商學評論』第一二卷第三號、二月)

昭和九年(一九三四年)

再び法律關係の性質決定に就て『國際法外交雜誌』第三三卷第六號、七月)

昭和一〇年(一九三五年)

國際私法論(三省堂、四月)

昭和十一年（一九三六年）

國際私法上に於ける先決問題（一）（『國際法外交雜誌』第三五卷第五號・第三五卷第七號、五月・九月）
國際私法に關する法案と立法例（ゲープハルト第一・第二案、獨・日・滿・支・法―譯文）（『商學論究』第五號、六月）
一九二八年の相續に關する海牙國際私法條約案（資料）（『商學論究』第六號、九月）

昭和十二年（一九三七年）

國際私法上に於ける遺言（一）（二）（三）（四）（『國際法外交雜誌』第三六卷第二號・第三六卷第四號・第三六卷第六號・第三六卷第七號、二月・四月・七月・九月）
卷第七號、二月・四月・七月・九月）
涉外相續序說豫稿（『商學論究』第一〇號、九月）
米國國際私法最近五〇年の動向（『民商法雜誌』第六卷第三號、九月）
希國國際私法草案（資料）（『民商法雜誌』第六卷第六號、十二月）

昭和十三年（一九三八年）

國際私法の適用筋書論（『商學論究』第一三號、六月）
國際私法法規適用上の若干問題（『國際法外交雜誌』第三七卷第一〇號、十二月）

昭和十四年（一九三九年）

國際私法上に於ける法定相續（東京商科大学研究年報（法學研究）第四號、二月）
國際私法（法律學全書）（三笠書房、八月）

昭和十五年（一九四〇年）

國際私法に於ける法律變更（一）（二）（三）（『國際法外交雜誌』第三九卷第二號・第三九卷第五號・第三九卷第六號、二月・五月・七月）

月)

法例上に於ける準據法變更(『一橋論叢』第五卷第六號、六月)
涉外相續と夫婦財産制(『一橋論叢』第六卷第五號、一月)

昭和十六年(一九四一年)

英米に於ける法性決定論(『一橋論叢』第七卷第六號、六月)

國際私法上に於ける遺言相續(『國際法外交雜誌』第四〇卷第一〇號、十二月)

昭和十七年(一九四二年)

實方正雄著「國際私法概論」(書評)(『一橋論叢』第一〇卷第二號、八月)

昭和十八年(一九四三年)

山口弘一名譽教授の喜壽(評傳)(『一橋論叢』第一卷第二號、二月)

昭和二十一年(一九四六年)

國際私法概論(巖松堂、八月(同二三年八月、同二五年一〇月、同二九年五月—改訂))

昭和二十二年(一九四七年)

法例第三〇條について(『一橋論叢』第一八卷第五・六號、十二月)

昭和二十三年(一九四八年)

死後認知について(『法學新報』第五五卷第五號、五月)

國際私法(法學入門叢書)(富士出版、一〇月)

昭和二十四年（一九四九年）

- 國際私法(一)（慶應義塾大學通信教育教材）（慶應通信圖書、二月）（三二年八月—改訂）
國際私法（學界展望）『私法』第一號、五月）
終戦後の特殊涉外身分關係（資料紹介）『一橋論叢』第三卷第四號、一〇月）

昭和二十五年（一九五〇年）

- 國際私法上に於ける婚姻の身分的效力（『法學新報』第五七卷第二號、二月）
註釋民法Ⅱ夫婦財產制（民法第七五條乃至第七六〇條）（中川善之助編・〈註釋親族法〉（上）有斐閣、三月）
國際私法(一)（慶應義塾大學通信教育教材）（慶應通信圖書、四月）（三三年二月—改訂）
國際私法上に於ける夫婦財產契約（『一橋論叢』第二四卷第四號、一〇月）
ラーベル氏の國際私法の構造——殊に法律關係の性質決定を中心として（『法學新報』第五七卷第一〇號、一〇月）
一橋法學の七十五年（座談會）（『一橋論叢』第二四卷第四號、一〇月）
國際私法上に於ける相續人の不存在（『法學研究』第三卷第一號、一一月）

昭和二十六年（一九五一年）

- 國際親子法上に於ける法律變更（『法學新報』第五八卷第四號、四月）
法例の改正（學會報告）（『私法』第五號、一一月）（この表題は誤って『國籍法』と印刷されている。）

昭和二十七年（一九五二年）

- 國際私法上に於ける相續契約（『一橋論叢』第二七卷第三號、三月）
先決問題について（一橋大學法學會編・現在法學の諸問題）勁草書房、四月）
包括準據法と個別準據法——衝突規則の衝突問題の一側面（『國際法外交雜誌』第五一卷第四號、四月）

國際私法に於ける夫婦財産制序説『法學新報』第五九卷第五號、五月)
國際私法學會(學界消息)『一橋論叢』第二八卷第一號、七月)
The Will in Private International Law of Japan (Annals of the Hitotsubashi Academy, Vol. III, No. 1, 1952. 1
〇月)
わが法例に於ける夫婦財産制『法學新報』第五九卷第一號、一一月)

昭和二八年(一九五三年)

國際私法と戸籍(身分法と戸籍)帝國法規出版、三月)
法律關係の性質決定(國際法學會編・國際私法講座)第一卷 有斐閣、八月)

昭和二九年(一九五四年)

國際私法例説(有斐閣、二月)
國際私法(有信堂文庫)(有信堂、三月)

昭和三〇年(一九五五年)

沖繩に關する準國際私法問題『國際法外交雜誌』第五四卷第一・二・三號、四月)(のち、これは國際法學會編(沖繩の地位)
(有斐閣昭和三〇年七月)に所收された。)

國際私法講造論(有斐閣、九月)

物權、婚姻の成立、親子、遺言(國際法學會編・國際私法講座)第二卷 有斐閣、一〇月)
國際私法(一橋の學問の傳統と反省)『一橋論叢』第三四卷第四號、一〇月)

昭和三一年(一九五六年)

國際離婚事件に關するわが裁判權『一橋論叢』第三六卷第一號、七月)

國際私法の基本問題(『法學セミナー』第一卷第四號、七月)

昭和三年(一九五七年)

日米國際婚姻の先例點描(『家裁月報』第九卷第一號、一月)

日米國際離婚の先例點描(一)(『家裁月報』第九卷第二號・第九卷第三號、二月・三月)

日米國際婚姻及び離婚の先例點描(一橋大學研究年報『法學研究』復刊第一號、三月)

昭和三年(一九五八年)

外國人間の離婚訴訟の裁判管轄權(判例批評)(『ジュリスト』一六一號、九月)(海老澤美廣と共同執筆)

昭和三四年(一九五九年)

日米國際嫡出親子問題の先例點描(小池隆一博士還曆記念論文集『比較法と私法の諸問題』、六月)

隔地的法律行為の方法準據法(『青山法學論集』第一卷第一・二號、十一月)

右、名譽教授久保岩太郎略歴及び著作目録は、昭和三四年二月一日を以て基準とする。なお、より詳細な年譜・業績については、一橋大學法學部長大平善梧教授を中心に計畫され、近日中に出版豫定の、久保博士退官記念論文集「國際私法の基本問題」(假稱)を参照のこと。